

# 営農情報

第99号平成22年12月29日発行

J A 福岡大城  
南筑後普及指導センター

## (イチゴ)

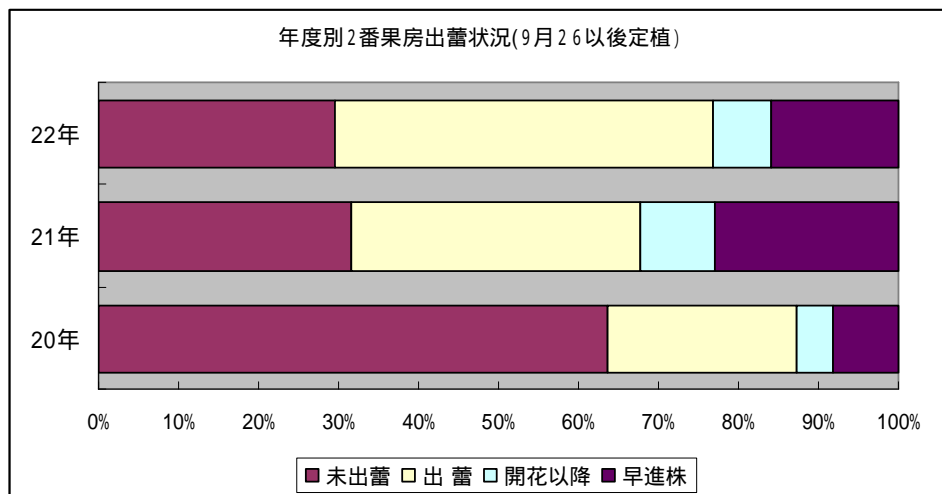
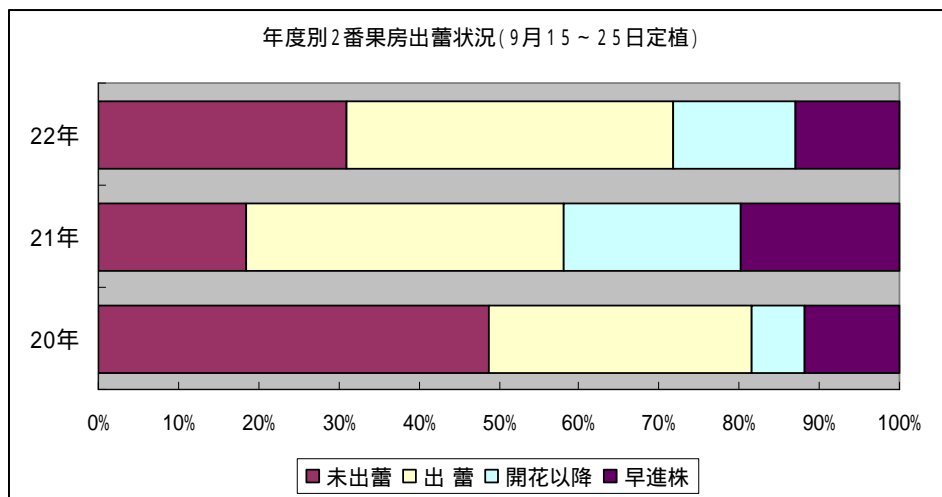
### 12月の生育経過

早期作型は比較的順調な生育で、11月上旬から大玉傾向で収穫開始となった。しかし普通作型は10～11月の乾燥等による生育遅れにより、12月中下旬からの収穫となった。

12月下旬時での収穫状況は、9月14日頃の定植では頂果房の残りは2～4果、9月17日前後の株冷・夜冷で2～4果収穫、9月21日頃の普通作型で1～2果収穫、9月25日頃の普通作型で頂果収穫始めであった。

2番果房については、早期作型は内葉数が4、5枚を中心に出蕾し7枚程度で未出蕾もあるなど株ごとの出蕾程度に巾がある。昨年ほどの連続出蕾ではないが、一昨年よりも早い傾向である。

普通期作型においては内葉数4～5枚程度での出蕾であるが、昨年ほど早くない。また一昨年よりも出蕾は早い。いずれの作型でも早進株の発生が見られる。



病害虫では、周期的な寒波のためにハウス内の湿度が上がり、灰色かび病、菌核病が発生しており、適切な換気、循環扇、暖房機による送風など湿度対策と定期的な防除が必要である。

また、アブラムシの発生圃場もあるので早期発見に努め防除する。

葉の展開は10日に1枚程度と遅くなっている。年末頃は、早期作型では着果負担のピークは過ぎているが、低気温の影響を受けやすくなる。普通作型では年末年始にかけて着果負担が大きくなるので、草勢を落とさないよう電照と温度管理を行う。

寒さも厳しくなり、天候不良が続く日も多く、イチゴの生育にとって厳しい状況が続く。12月は比較的株が立ち上がった圃場が多かったが、これから予想される寒波のため、電照時間を短くする時期ではなくなるので、徐々に時間を延長する。

## 1月の管理方針について

1月は、外気温の低下・日照時間の短縮と着果負担により、草勢が低下(わい化)しやすくなる。適正な温度管理と電照時間調整により、心葉の伸長状況を確認し、草勢を維持するよう管理する。

## 今後の管理について

かん水・液肥の施用

草勢維持に定期的なかん水を励行する。マルチの上から土を押す等で、適湿を把握する。

(pFメーターを設置している場合は、pF値1.7~1.8(灰色カビなどの多湿性病害が発生している場合は2.0~2.2)で管理する。)

液肥は、株が弱らないよう定期的に施用し、窒素成分で2kg/10a/月(窒素成分10%液肥20㍓で2kg)を3回以上に分けて行う。

芽の整理

2番果房出蕾以降の芽数は4~5芽までとし、「どろ芽やわき芽」の除去を徹底する。

早進株では、芽なしになりやすいので摘果等により負担を軽くし芽を立たせやすくする。

果梗の除去とダニ防除

収穫が終了した1番の果梗は、3番果房の早期出蕾を促進するため、早めに除去する。

と同時に、枯れ葉や黄化した葉など不要になった下葉の除去を行う。

特に、ダニの発生を認めた株は、拡大防止のため強めに葉の除去を行う。

温度管理

草勢が弱い場合や2番果房の生育が遅れている場合は、高めの温度管理により、心葉の展開や果房の生育を促進する。

### 【 果房の生育状況別温度管理の目安 】

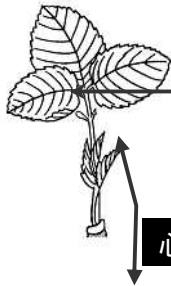
	昼間	夜間	備考
1番果房収穫期間	20~24	5~7	収穫中は品質向上に低めの温度管理
1番果房収穫終了後から 2番果房収穫開始まで	24~28	5~7	2番果房の生育促進と、3番果の早期出蕾を目的として高めの管理

曇天降雨日が連続する場合は、ハウス内の除湿（「灰色かび病」対策）を目的として、日中は除湿（換気等）の徹底と、夜間は暖房機が稼働するように高めの温度設定を行う。

**電照時間の調整**

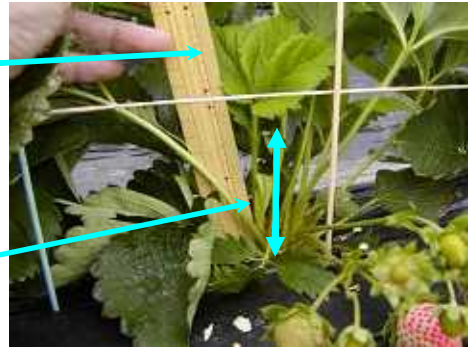
電照時間は、草勢（特に心葉の展開状況）を観察し、その後の生育を予想して、1～6時間で調整する。立ち上がり過ぎても、電照を切らない。

心葉展開時の葉柄長の測定



心葉展開時に、外葉より、葉色がややすく・つやがあるかを確認

心葉展開時の葉柄長



**【 心葉展開時の葉柄長と電照時間調整 】**

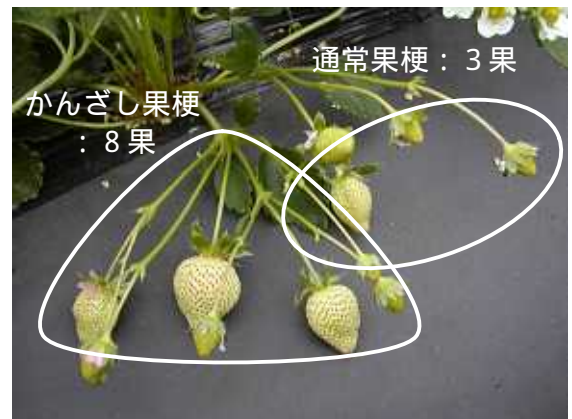
心葉展開時の葉柄長	8 cm以下	9 ~ 10 cm程度	12 cm以上
電照時間の調整	時間を長く	現状維持	時間を短く

**摘花**

2 番果房の着果数制限は、3 番果房への連続的な収穫を図るために行う。

**【 1 枝当たりの着果数の目安 】**

通常果梗 : 3 ~ 5 果 / 枝
かんざし果梗 : 6 ~ 8 果 / 枝



2 番果房摘花後の着果状況



本年も早進株や、9月20日以降定植の短期株冷処理や普通作型での多果（花）株(左画像)が発生している。

いずれも着果過多の傾向であるため適当な摘果を行う必要があり、12～15果程度の着果数にする。

**病虫害防除**

➡ ハダニ類 低温期はハダニ類の活動が衰える。この時期に抑えておかないと2月以降に急増するので防除を徹底する。下葉の除去後は、防除適期である。

➡ 灰色かび病（別紙参照）

空気湿度の高い日が続いた場合に発病が増える。ハウス内が多湿にならないよう多量かん水

をさけ、換気に努めるとともに、発病を認めた場合には、罹病葉や罹病果を速やかにハウス外に持ち出す。

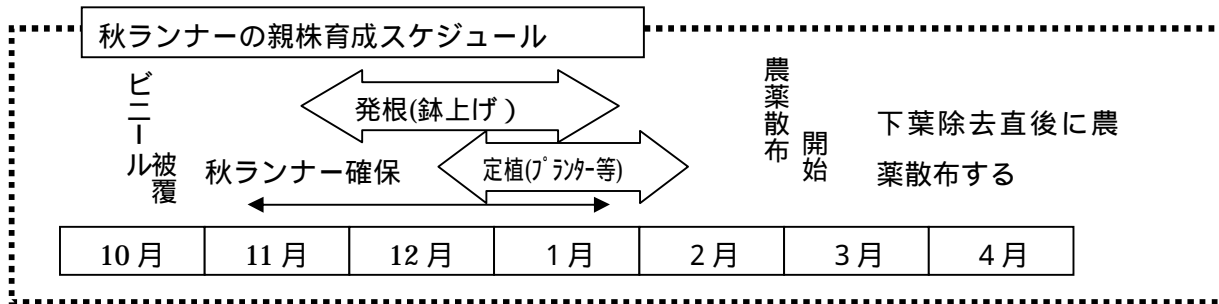
➡ うどんこ病（別紙参照）

発病を認めた場合には、病葉や病果を速やかにハウス外に持ち出す。

➡ 菌核病

ハウス内や通路が過湿にならないように管理する。発生したら、被害葉を除去し、株元のマルチを破って広げ、株元を乾燥させる。

➡ 次年度以降の炭そ病対策



**親株定植（プランター等）**

- ・ 定植はプランター等に行う。（土耕では無病・排水良好ほ場が条件）
- ・ プランター等は土壌と隔離した場所（棚育苗床等）に設置する。
- ・ 定植は遅くとも2月中旬までに終了しておく。

- 1 散布前は必ず農薬ラベルの確認と飛散防止の徹底！
- 2 散布後は必ず散布器具(タンク等)の洗浄と防除履歴の記帳！

# 「あまおう」厳寒期の病害防除について

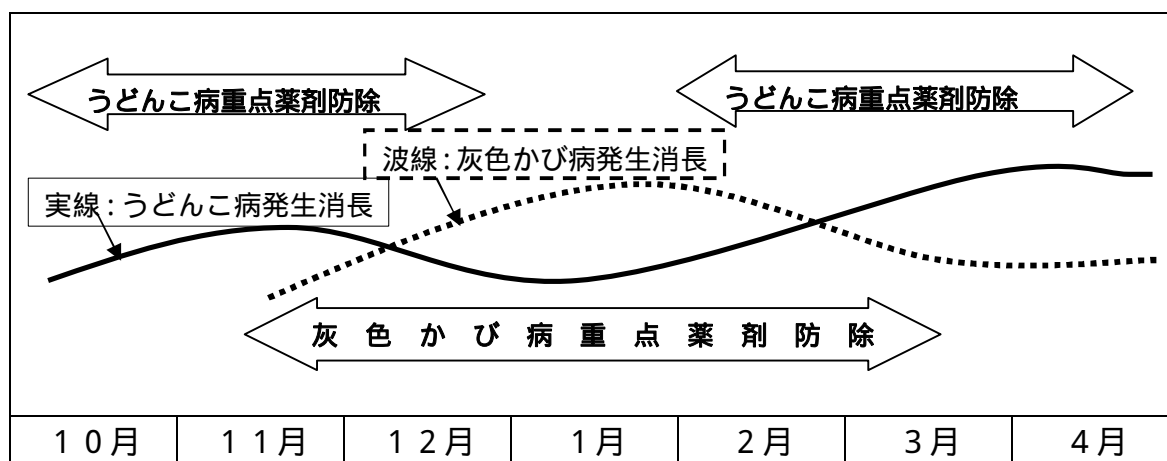
平成22年12月29日発行

J A 福岡大 城  
久留米、南筑後普及指導センター

## 病害の発生状況について

本年度は、育苗期の後半に高温であったためうどんこ病は抑制されていると推測され、これまで多発の情報はありません。

しかし、これから厳寒期に向かいハウス換気をしないようになり、また年末には多くのほ場で株が立ち上がり気味に生育していたため、灰色かび病、菌核病が発生しやすくなるので対策が必要です。



## 病害対策について

### 灰色かび病 菌核病

多湿にならないように換気に努めて、灌水過多やハウス内の水滴ぼた落ちなどにも注意してください。暖房機による送風や循環扇などで通風を促すことも発生防止に有効です。

また枯死下葉や被害果は必ず除去してハウス外に出して下さい。

薬剤耐性菌が発生しやすいので系統の異なる薬剤のローテーションを心がけて下さい。

### うどんこ病

一度激しく発生すると完全防除が難しいため、発生前からの予防対策を行い、発生後は5～7日おきの集中防除が必要です。1番果房終了後に2番果房収穫開始までに必ず薬剤防除をして下さい。また被害果、被害葉は取り除き、ハウス外で処理して下さい。

スーパースモーキーなどの電気加熱式くん煙器を2～4時間程度使用することも有効です。(ただしイオウくん煙後、炭酸ガス発生装置の可動までに4時間以上あける)

例について（農薬混合表、農薬のラベルを必ず確認）

うどんこ病

薬剤名	濃度	使用時期	使用回数	
パンチョTF顆粒水和剤	2,000	前日	2	トリフミンとの混合剤
サンリット水和剤	2000～4000	前日	3	
スコア顆粒水和剤	2000	前日	3	
ラーイー水和剤	4000～8000	前日	3	
ルビゲン水和剤	4,000	前日	3	
ストロビーフロアブル	3000～5000	前日	3	高温時薬害・展着剤不可
カリグリーン	800～1000	前日	-	葉面散布剤との混用不可
ハーモメイト水溶剤	800～1000	前日	-	
ベルコート水和剤	4000	前日	2	

灰色かび病

薬剤名	濃度	使用時期	使用回数	
カンタスドライフロアブル	1000～1500	前日	3	
フルピカフロアブル	2000～3000	前日	3	散布
	50			常温煙霧(うどんこで登録)
ボトキラー水和剤	1000	発病前 ～発病 初期	-	散布
	300g/10a			常温煙霧
	10～15g/10a/日			ダクト内投入
ロブラールくん煙剤	くん煙室容積 300～400 立方 $\text{m}^3$ (高さ 2m、床面積 150～200 $\text{m}^2$ ) 当り 100g(50g×2個)	前日	4 液剤との総 使用 回数	
スマレックスくん煙顆粒	くん煙室容積 100 立方 $\text{m}^3$ (床面積 50 $\text{m}^2$ ×高さ 2m) 当り 6g	前日	3 液剤との総 使用 回数	
ジャストミート顆粒水和剤	2000～3000	前日	3	セイビア-との混合剤
セイビアーフロアブル20	1000～1500	前日		予防剤

\* 水和剤による果実の汚れに注意して下さい。

- 1 散布前は必ず農薬ラベルの確認と飛散防止の徹底！
- 2 散布後は必ず散布器具(タンク等)の洗浄と防除履歴の記帳！